

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 10月 27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670102779		
法人名	特定非営利活動法人デイサービス このゆびと一まれ		
事業所名	グループホーム このゆびと一まれ茶屋		
所在地	富山市茶屋町 441番地 3		
自己評価作成日	平成28年10月15日	評価結果市町村受理日	平成29年1月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成28年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をモットーに入居者一人ひとりのらしさを大切に、地域や家族の見守りのなかで共に支え合いながら暮らすあったか〜い家です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者は日常生活が我が家での暮らしであるように地域の協力と職員の見守りの中でゆったりと、楽しく、思い思いに過ごしている。管理者と職員は実践・研修を重ね介護観を共有一体化して、利用者一人ひとりの生活状況に合わせた支援に努めている。本人・家族の希望があれば、かかりつけ医と連携を図り、事業所の和室で自宅と同じように家族そろって床を並べ手を握るなど、家族との時間や触れ合いを大切にしたい看取りを実践している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）

※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム このゆびと一まれ茶屋

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に溶け込み、地域に助けられ、地域の困った声に応える。「笑う門には福来たる」をモットーに入居者の「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を大切に日々努めている。	管理者と職員は利用者が自宅での生活がそのまま続けていけるよう利用者一人ひとりの生活状況を把握して、介護観を共有しながら家族的情味の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、可能な限り町内行事（清掃、運動会、忘年会etc）に参加交流し相互の理解を深めている。	管理者は区長や班長を担ってきており町内での存在が違和感なく認められている。一人で出歩く利用者にも気軽に声を掛け合うようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢化・独居のすすむ地域の現状を知るにつれ事業所としてでき得る支援・貢献が必要と感じている。ニーズがあればいつでも対応できるよう備えたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態やターミナルの問題・防災への取り組みなどの報告や話し合いを通じ、様々な助言をもらいサービス向上に活かしている。	自治会長、区長、防災部長、民生委員、地域包括支援センター職員を主メンバーに事業所の現況や最近の福祉関係の新聞ニュースなども報告し、活発に意見交換している。近所の道路の舗装の要望などもしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表が富山県グループホーム連絡協議会の役員をしていることもあり、市介護保険課との連携をはかっている。	理事長が県・市との協力関係を深めており、また福祉関係者との交流もできているので、相談を受けたりして連携している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠、また人としての尊厳、その人らしさを損なう行為は心や身体の手束とも考えそのようなことがないよう心がけケアをしている。	利用者の尊厳を守り、その人らしく家庭における日常生活が損なわれないように予防にも注力している。ミーティングでもしもの時の対応についても十分に話し合い確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者を家族のように思い愛しむ中で虐待はあり得ない。自分の心に余裕をもち、チームとしてのケアを大切にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、職員間で共通認識をはかり、必要時に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族への説明・理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族が意見や要望を言い易い環境をつくり介護相談員の受け入れもしている。意見や要望は職員が共通理解し、運営に反映させている。	家族が利用者の費用請求書を受け取りに来て、後日定められた日に支払いに来るようにしている。その時々利用者の現況を話し、要望を聞く機会としている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの中で各々の意見や思いを聞き、ケアの向上などに反映させている。	管理者は現場での日常的な意見の吸い上げ、ミーティングでは勤務の休み時の相互協力や利用者の個別支援について話し合い、介護観の統一など共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護する喜びややりがいなどがもてるように事例を通して話し合っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主として、OJTにおいて各々に必要な研修を行い外部研修の機会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	富山県グループホーム連絡協議会の勉強会などの参加を通しケア向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけじっくり傾聴し見守る中で、安心と信頼を持ってもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	じっくり傾聴し家族の思いを理解し信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要な支援を見極め可能な限りの対応に努めている。過去にホームからデイへ通った入居者もある。柔軟な個別対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者からは日々の暮らしを通じ、物を大切にしたり人を慈しむ心など教わることも多く共に支え合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いと同じように家族の思いを大切にしそして、家族の力を大いに借りながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人が気軽に訪ねて来られるような雰囲気づくりや馴染みの場所へ出かけられるよう手配したり同行したりしている。	職員はアセスメントシートに記載されている馴染みの関係にも気を配りながら、日常会話からさりげなく聞き出して出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者どうしの関係を円滑にするための潤滑油となり、その都度適切な距離間をもって見守り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去の契約終了は死亡によるものである。時々その家族の訪問があり、良好な関係が続いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人もしくは家族から思いや意向を聞きとることに努めている。困難な場合は、これまでの生活歴など様々な情報からその人らしさを想像するよう努めている。	これまでのアセスメントを参考に本人本位で現在の思いや好みを把握している。状況の変化によって思いも変わり、その都度環境を変えたりケア方法を変更しながら職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話、そしてこれまでの使用サービス内容などを知り、これまでの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わりや日々の観察、職員間の情報交換・共有により現状を把握したうえでその日一日の過ごしができるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が現状に即して作った計画を元に、本人・家族・他職員の意見を取り入れ作成している。運営推進会議においても検討することがある。	毎月のモニタリングは担当者が計画の具体的な項目に沿って細かく記入している。一覧表の書式を使い変化がわかり易く把握できる。日々の申し送りでも細かい視点でとらえ個々の状態を把握し計画作成に繋がる実践をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録による情報の共有に努め日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今必要な支援に対し、可能な限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店の理解・協力を得て、入居者が付き添いなしで外出を楽しむことができる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に代わって受診の付き添いをしたり、頼りになる協力医の往診を受け適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の訪問診療を月1回受け健康管理を行っている。状態の変化では併設デイサービスの看護師と相談したり、家族に連絡をとり、かかりつけ医の受診を勧めるなど信頼できる連携体制を継続している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面での変化があれば速やかに看護師に報告・相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の協力のもと医療機関と協働し、適切な治療と早期退院とその後に向けての支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化あるいは終末期のあり方については適時、かかりつけ医・家族・事業所との話し合いを設け、方針の共有をはかっている。家族の納得がいくまで話し合いをもつよう努めている。	かかりつけ医との話し合いで連携を図り、本人・家族で大切な時間が過ごせる看取りを支援している。事業所の和室で、自宅と同じように家族揃って床を並べ休むことができるように配慮し、家族と自然に触れ合える看取りを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が想定される場合は、事前に、対応手順を共有するよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回（春・秋）火災非難訓練を行っており、町内からの参加・協力もある。また町内の防災訓練にも参加している。	地域住民と一緒に避難訓練をしている。また、火災時にいち早く初期消火するため、町より具体的な災害対策の情報を得て、町内の防火訓練に参加するなど、地域と災害対策の共有を図り協力体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況によっては、くだけた口調での会話もあるが、常に尊厳を念頭においてその場に応じた対応に努めている。	トイレ誘導時にはその方に合った声かけや対応をしてプライバシーに配慮している。日々の申し送りで状態を詳細に伝え、小さな変化も見逃さずに統一したケアができるように共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表出し易い言葉かけを心がけ、また表情を読み取り思いを理解するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り各々のペース・思いを大切にし優先させるように努めている。困難な場合は、それに代わることを支援するなど、できるだけ思いを大切にしよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを優先させつつも季節や着心地にも配慮し援助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物を大切に入居者と一緒に調理している。各々の咀嚼・嚥下に応じた食事を支援し、入居者と一緒に準備片付けを行っている。	一人ひとりに合ったペースで食事ができる見守りをしている。旬の物や新鮮な食材を買い美味しく食べる事を大切にし、外食やイベントの特別メニューを取り入れて楽しさが持てる食事を支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は一日トータルでとらえ体調なども考慮して過不足のないよう摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕に口腔状態に応じたケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の間隔やパットの使用方法など各々に合わせた工夫で支援している。	排泄パターンに合わせてのケアで排泄自立を促している。皮膚状態や季節の変化を考慮したオムツ等の選定や、排泄に繋がる食材の摂取を勧める取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝オリーブオイルを摂り、排便を促す食材を意識したメニュー作りをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	季節や体調に応じて入浴間隔を決めている。希望があれば予定外でも入浴できるよう支援している。半身浴・足浴も行っている。	ゆっくり時間をかけて半身浴をすることで体調の改善が図られている。実際、排尿量が増えむくみが取れたり、血行促進で唇の血色が良くなるなどの効果が見られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の生活リズムの中で自由に休息をとってもらい、必要時に促すこともある。夜間の安眠を可能にするために寝具類などの環境整備も支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法は理解している。新たに使用した薬については、症状観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の得意を活かした役割への支援をしたり、以前していた趣味を促してみたり、一人ひとりに合った役割・楽しみごとがあるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や身心の状態を考慮して、ひとりでの外出を見守ったり、同行したり、本人の希望に沿う外出を支援している。	「外に出かけたい」と希望を言われ一人で行く利用者を見送ったり、一緒に付き添って行くなど日常的な外出を支援している。車でのドライブや家族と一緒に花見や温泉、花火見物なども含めた外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が財布を管理しており、外出時に必要分を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば自由にかけてもらっている。手紙のやりとりも自由にしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、窓を開け放ち、外の景色が見えるようにしたり、時間や季節を感じてもらえるようにしている。オープンキッチンにし、生活の音や匂いを大切にしている。	一日の家事の食事づくりから洗濯物たたみ、掃除など自宅と同じように行いほとんどの時間をリビングで過ごしている。午前・午後にお茶を飲んだり、体操や畑で野菜の世話をし収穫して調理するなど思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルを囲むスペース以外にソファを設け、思い思いにすごしてもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものをもち込み導線にも配慮したしつらえがなされている。仏壇もある。	家具や馴染みの品を持参してもらい落ち着いて過ごせる配置をしている。一度持ち込んだ品でもその時の状態に合わなければ持ち帰ってもらい快適に過ごせる居室となるよう家族と相談している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流しは低めにしつらえてあり、炊事がし易くなっている。お風呂・トイレ・廊下には手すりを設け、自助を促す支援をしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこのゆびと一まれ茶屋
作成日 平成29年2月17日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族の思いが汲み取られていない支援になっている場合が考えられる。	家族の思いや要望のより深い把握と理解	家族の面会時などに、意識的にコミュニケーションを図るよう努める。	継続的に
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

グループホーム このゆびと一まれ茶屋